

東京教区報恩講にオンライン参詣



南無阿弥陀仏

人として生まれた意味をたずねていこう
—今、であう—

光といのち

第130号
2021年5月20日発行

発行所
真宗大谷派勝善寺
〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメールino-teyy@khaki.plala.or.jp

URLhttp://syozenji.or.jp

住職 釋孝昌(井上孝昌)

はじめに名号あり

安田理深

わからなくなったら

はじめにかえる

安田理深師の講義を

聴聞された方の言葉

一月二十八日(木)に東京教区

報恩講が練馬の真宗会館で行われ
ました。コロナウィルス感染
症蔓延中でしたので、勝善寺所
属門徒は本堂に集まりユーチュ
ーブ画面から参詣しました。

閉会後に、東京教区教化委員
会報「ネットワーク9」編集員
の田宮真人氏と中村晃氏から、
ズームでインタビューがありま
した。参詣者は、左記の七名で
す。なお敬称は略します。

川名喜昭 川名ふじ子

黒川敦子 鈴木正一郎

谷 英郎 田村晋一

渡邊秀子

海 法龍 先生の法話の抜粋は
この頁に、インタビューへの内
容は、二頁、四頁に掲載しまし
た。法話全文を読みたい方は、お
申し出ください。

はじめに名号あり

私たちは大切な人を失った時、大きな壁にぶつかった時、或いは
危機的状況の中で、生活そのものが閉塞していくような中で、「南
無阿弥陀仏」から、私たちの生き方、生きる姿勢が問われているこ
とを強く感じさせられます。

先日、安田理深先生のご本を読んできました。その中で「はじ
めに名号あり」というご講義を聴聞された方が、「わからなくなっ
たらはじめにかえる」という自らの言葉にして受け止めておられた
文章も、合わせて掲載されてありました。

コロナ下での社会や一人ひとりの行き詰まりの中で、私たちの今
までの価値観や、ものの見方、在り方では、その困難な状況を生きて
いくことが、なかなか難しい。ステイホームやリモートでの在宅
の仕事の中で、孤立しやすい環境になり、その中でどう生きていけ
ばいいのかわからなくなる。どうしたら良いのか、どこに自分の依
って立つ場を見いだしたら良いのか。

だから、改めて、生きているということの、存在のはじめに帰る、
原点に帰るといことが、実はその困難な状況から促されているの
です。そして、私は私の思いを超えて、父と母の命をいただいて生
まれてきた命です。自分の思いを超えて私はある。わからなくなっ
たら、その私の命の、存在のはじめに帰る。そのことを「はじめに
名号あり」という言葉で示してくださっているのでしょうか。安田先
生とその方の言葉をいただきながら、深く領くものが私にありま
した。



海 法龍 師

名号は「南無阿弥陀仏」です。私たちが報恩
講を通して、「南無阿弥陀仏」のお心に出遇わ
せていただく。親鸞聖人がいつもそこに帰り、
そこから歩んでいかれたのです。私たちもまた、
そこに帰っていかねければならない。そのこと
を示す言葉が「南無阿弥陀仏」。そこに人とし
て生まれたことの意味が示されているのです。

(『ネットワーク9』2021年4月号より抜粋)

ズームインタビュー

質問 い法話を頂いての感想は

川名 今日、緊急事態の中での報恩講は、「お寺で聴聞できた」ということが一番良かったと感じております。海先生のお話でも、改めてこの報恩講の大切さを確認できました。

田村 ご法話の感想ではないんですが、日頃すごく気になっていることをお話しします。

それは聞法の仲間は、他のグループの方と比較すると、人との接し方に優しさが溢れているのではないかなと感じています。今日もこうして仲間と一緒に聞法していると、そんなふうに感じています。

住職 それは何故だと思いますか。

田村 いや、私もよく分からないんです（笑）。しかし色々法話を聞くと、「原点に戻る」というか……。それを繰り返しやっているからですかね。仏様の前でみんな偉くなれないから優しさを感じられるのかな。そんなことが私の頭の片隅にあります。

谷 今日は、オンライン配信で報恩講をお勤めさせて頂きありがとうございました。非常に上手いって感じしております。

海先生のお話ですが、私にとって非常に意義でした。と申しますのは、「変わり目にあって、絶えず原点に立つ」「はじめに名号あり」という話ですね。

私は90歳まで生きてきて、その間、色々な変わり目があったんですけど、そういう時に絶えず原点に帰ってやっておりました。若い頃は科学の実験をやっておまして、行き詰まることが度々ありました。そういう時はこの「原点に帰る」ということが非常に重要であったと感じております。

今、こうして歳を取って「原点に帰る」ということが中々難しくなりまして「はじめに名号あり」というところまではまだ行けない私を反省しております。

住職 谷さんは、実は昨年奥様を亡くしておられるんですよ。

「はじめに名号あり」とは、どういうことですかねえ。谷さんの言う「原点に帰る」と同じですかねえ。なかなか難しい。課題にして一緒に尋ねてまいりましょう。

渡邊 真宗の教えのご縁を頂いてから6年経ちますが、海先生のお話を聞くことが一番多いんです。先生は「教えは問ひかけ」だということは常に仰ってくださいます。

やっぱり問ひかけが無いと、自分の思いで生きていってしまうじゃないですか。だから常に「これでいいのか」「大事なことでって一体何だ

ろうか」という問ひかけられ。また、「慚愧」というのは本当に心に深く恥じることだから、それを私たちが生きていく上で「土台」にして、そこから始まっていく。「恥ずかしいな」という思いはなかなか持てないじゃないですか。物が分からないとか、そういう恥ではなくて、心から深く恥じるということ。それを土台にして、そこから色々なことを考えていくということが大事なんじゃないかなと思います。

黒川 ごめんなさい。私は正直、海先生のお話がよくわかりませんでした。というのは、「常に南無阿弥陀仏に帰る」と。「南無阿弥陀仏が示す世界に戻る」というお話でしたけれども、日常生活の中において、具体的にはどういうことを指すのか。それが分からなかったですね。具体的なことが……。勉強不足なのかも分かりませんが、それが私の感想です。

住職 正直にありがとうございます。ぜひそこを課題に、聞法してまいりましょう。

川名夫人 私は何年も聴聞させて頂いているんですけども、真宗の教えはとても難しく、私の頭ではなかなか理解できないんです。でも、今日の海先生のお話はすごくやさしく聞けることができました。「ああ、良かったな」というのが今日一番の感想です。

鈴木 今日お話を伺って、「願われているとい

うことは問いかけられているんだ」と。そして、「問いかけられているというところそのものを忘れてしまっているのではないか」というようなお話がございました。「一応私も僧侶ではあるんですが、自分に対しての問いかけというものを、これからはもっと意識して取り組んでいかないといけないのかなと、改めて思いました。」

住職 変だな、嫌だな、頭にくると思ったら、それが阿弥陀様からの問いかけだと意識して聞法に取り組むということですね。

「腹が立ってしょうがない」とか、「なんで私はっかり」とか、さっきの、「が分からない」とか。その根源を教えに尋ね、座談会では語り合います。ちょっと勇気が入りますが。

質問 「コロナ禍に思うこと」

川名 緊急事態ということで、昨年の11月に行ないました勝善寺の報恩講も、例年ですとこの本堂に100人から集まるどころ、「三密を避ける」ということの中で、「30人以下」ということで行なったんですけれど、「ユーチューブ配信」ということで他にも30軒ぐらいの門徒さんのところへ配信しました。

その時に感じたのは、「やっぱり報恩講は人が集まらなければいけない」ということです。一方でやっぱり心配されるのは、ユーチューブだとかズームだとか、あんまりそれを表に出してしまうと、「ご門徒さんがお寺に足を運ばな

くなってしまっているのではないかとということが危惧されます。やっぱりご門徒さんがお寺に足を運ばなければ、お寺は繁栄しないというふうに考えています。

都会のお寺とは違い、地方のお寺というのは「檀家制度」というものが主になっており、どうしても門徒さんがお寺に足を運ぶことが大事なんです。そして、お寺で聴聞することが一番大切だし、「お寺離れ」ということが言われている時代ですので、これから、できればご門徒さんがその都度お寺に足を運ぶことが一番大切だと、日頃から思っています。

ですから、来年度の報恩講は、もう一度「原点に戻る」ということ。海先生がお話しになったように、もう一度考えて直さなければいけないと思うところであります。

住職 今日は『ネットワーク9』のインタビューのお陰で、座談会のような時間を久しぶりに皆さんと過ごせました。

勝善寺は南房総市にあり、東京からは随分遠いんですね。千葉県の中でも一番南にある真宗大谷派寺院です。ですから東京や県北で開かれる聞法会などに住職や坊主が運転手となりご門徒と行くんです。だから車に乗れる人数だけしか行かない。(笑)

でも、その車の中で、結構色々なお話が出来るんです。行き帰りがまるで座談会のようなんです。そういうことがコロナ禍で無くなりました。

今後、オンラインでの座談会を工夫する必要があると感じています。

仏教では仏・法・僧を三宝と言います。僧は僧伽(サンガ)、聞法生活する仲間のことです。だからご門徒の皆さんは、本当に「宝」なんです。仏教を依り処として生きる仲間です。

これからの新しい時代に、仏教、浄土真宗が伝わっていくかどうか、今の私たちにかかっています。

この「コロナ禍」という状況は、先ほど海先生が仰られたように「再出発の機会を私たちに与えてくださった」のでしよう。

田宮 みなさん有難うございます。私たち二人も、今日は真宗会館に足を運ぶことも叶わなかったのですが、こうして皆さんの受けとめを聞かせて頂いていると座談の場に身を置いているような感じがしております。

こういう状況のおかげで、オンラインではあります、皆さんと一緒聴聞できたことがすごく有難いことでした。

(谷さんが挙手)

谷 私も歳を取ってしまして。日頃からズームとかユーチューブをやっているんですが、非常に便利で、家において外を歩かなくても法話を聞けますし、その辺は絶対に考えておいて頂きたいと思います。もう時代が随分変わってきていて、若者もみんな、こういうズームやユーチューブに慣れていますので、若い人の獲得を

どうやってやっていくかということを考えなければいけないと思うんです。
その辺のことを、どうお考えでしょうか？

住職 若者がユーチューブやズームをよく使っているから、その方々を対象にしていけることが、今後は大事になっていくのではないかということですよ。では、中村さん、若者代表として応えて（笑）

中村 そうですね。なかなか若い人にとって、お寺に足を運ぶということが難しい時代ですね。法事で若い人が来られますけれど、他人事のような、「付き合いで付いてきました」というような人がどう

川名喜昭氏が、君子蘭(クンシラン)を毎年飾ってくださいます。

しても多いんです。だからお話ししていても上の空で聞いているような、20代ぐらいの若い人とかを法事でよく見かけますけれども、そういう

た世代はスマホとかパソコンなどを卒なく使いこなしています。

ですから、若い人はこうして直接向き合って喋ることに抵抗感を持っているんだろうなということを感じます。なかなか人を信頼できないというか。たぶん友達とかであれば、心打ち解けて話せるんですけど、初対面の人とどう接していくかが分からないと。実際にお寺へ来ていれば、そういうこともどんどん学んでいくんだろうとは思いますが、中々それと上手く出来ていないなということを実感しています。

ですので、その足掛かりとして、「お寺というのはそんなに敷居が高いものではないんだよ」というのを宣伝すると言いますか、そういったことに繋がる一つの手段として、こういうユーチューブやズームというのは、すべてがそっちに移行する訳ではなく、お寺で会うということと、オンラインという今の技術の活用が並行して進んでいくというのが、僕としてはコロナが終わっても、残っていけば、どんどん裾野が広がって良いのかなと感じております。僕の意見としては一ついいことですね。

「ただ念仏して
弥陀にたすけられま
いらすべし」(『歎異抄』)

法然上人のこの言葉から、親鸞聖人の浄土真宗の歩みが始まりました。

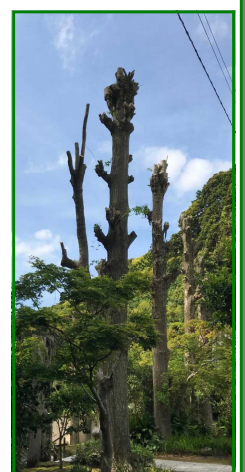
私たちも、**まず念仏申しましょう。** お内仏（お仏壇）の前でお墓の前でことあるごとに「南無阿弥陀仏」「南無阿弥陀仏」と念仏申しましょう。

「南無阿弥陀仏」という名号は仏の願いなのです。その願いを伝えるために名があります。名に触れなければ願いに触れることができません。名という形、言葉がなければ、願いに触れることができないのです。だから「はじめに名号あり」と、海先生はお話くださいました。

念仏申すと、自分に都合良く状況が変わるということではありませんよ。逆説的ですが、救われない自分が見えてくる。

それは、何故か？

その問いから真剣な仏法聴聞が始まります。そして、その歩みの中に、全人類を平等に救う仏の願いとの、出遇いがあります。



イチヨウの大木の枝が繁茂し過ぎたので、川名陽一郎氏に依頼し、30余年ぶりに伐採しました。枝や銀杏が落ち危険だからです。

このイチヨウは、明治二（1869）年、報恩講に出店した露店から出た火により本堂が炎上し、その後に火除けのために植えられたそうです。本堂前の池も防火用の水を貯めるために造ったと聞いています。

念仏申し聞法しましょう。

月曜日朝のお勤め 6時5分～
6月8日9時～ 八日講十日講
6月13日14時～ 同朋の会
6月27日8時30分～ 奉仕作業
7月18日14時～ 同朋の会
8月10日10時～ 盂蘭盆会
※同朋の会は、仏法を聞き語り合う会です。ズームで配信します。
盂蘭盆会は、ユーチューブで限定配信します。